

今週の為替相場見通し(2018年12月10日)

総括表		先週の値動き		今週の予想レンジ
		注	レンジ	
米ドル	(円)		112.23 ~ 113.87	111.00 ~ 113.80
ユーロ	(ドル)		1.1312 ~ 1.1424	1.1250 ~ 1.1500
(1ユーロ=)	(円)		127.64 ~ 129.38	127.00 ~ 130.00
英ポンド	(ドル)		1.2659 ~ 1.2840	1.2600 ~ 1.2900
(1英ポンド=)	(円)	*	144.52 ~ 145.84	142.50 ~ 144.50
豪ドル	(ドル)		0.7192 ~ 0.7394	0.7050 ~ 0.7325
(1豪ドル=)	(円)	*	81.59 ~ 83.22	79.00 ~ 82.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1)今週の予想レンジ: 111.00 ~ 113.80 円

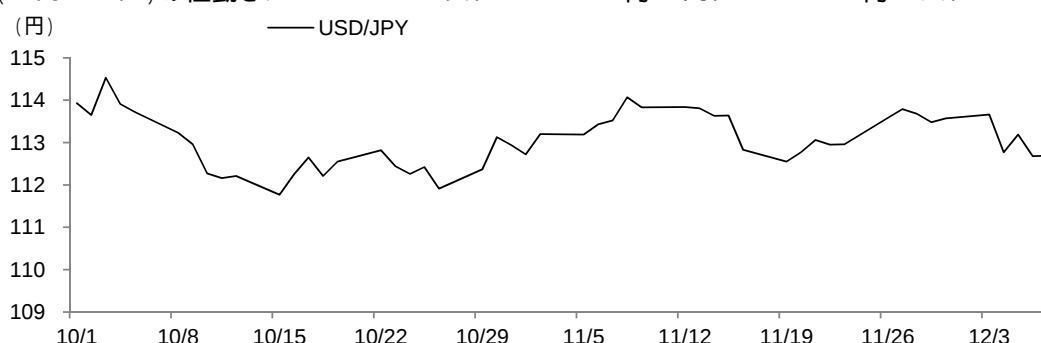
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、軟調推移。週末の米中首脳会談で両国の追加関税が当面見送られることになったことを受けて、米中貿易摩擦激化の懸念後退から週明け3日のドル/円はギャップアップして113円台後半でオープン。一時週高値となる113.87円をつけたが、合意内容は対中追加関税の発動が90日延期されるなど根本的な解決にはなっていないことが嫌気され113円台前半まで反落。4日はFRBの利上げペース減速が再度意識され米10年債利回りが9月中旬以来の水準まで低下する中で112円台後半まで急落。その後113円近辺まで上昇する場面も見られたが、米株安債券高が進行し112円台半ばまで下落した。5日は、五・十日のドル買い需要や日経平均株価の上げ渡りが意識され113円台を回復したが、6日は中国通信機器大手の幹部がカナダで逮捕され米国が引渡しを要求していることが伝わり、米中関係の悪化懸念から112円台半ばまで反落。その後、中国商務省の「90日以内に米国と貿易合意に達する自信がある」との声明に113円台前半まで買い戻されたが、米11月ADP雇用統計などの米経済指標が予想よりも弱い内容だったことから一時週安値となる112.23円をつけた。しかしその後は、FRBのハト派シフトを示唆するWSJ報道が好感されたこともあり、米株が反発する動きにドル/円も112円台後半まで反発。翌7日、米11月雇用統計では、非農業部門雇用者数、平均時給がともに予想を下回り、ドル売りの反応。一方、石油輸出国機構(OPEC)加盟国、非加盟国は全体で日量120万バレルの原産を合意し、原油価格は一時5%超反発。ドル/円も株価の反発につられて一時112.90円超えまで反発する場面も見られたが米株安、金利低下が続く中で上値は重く、112.74円で越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想。先週は、G20後のリスクオン環境下でも、114円付近での上値の重さを確認。米金利の低下が続く中、中国通信機器大手の高官逮捕や米中関係悪化懸念を受けた米株の調整も相まって、一時112円台前半まで安値を更新する展開となった。足元、米国債の上昇基調が注目されるが、FRBがブラックアウト期間に入中、週末発表された雇用統計も足元のセンチメントを変えるには至らず。また、米株は週末も大幅続落となったが、来週は11日にイタリア政府による修正予算案提出や、英国政府がEUと合意した離脱協定案に関する議会承認手続きといったイベントを控え、欧州でも不透明感が引き続き払拭されない状況。ドル/円はマーケットのポジションもまだロングに傾いており、引き続き上値の重い展開が続こう。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/3~12/7)の値動き: 安値 112.23 円 高値 113.87 円 終値 112.74 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 玉井 美季子

(1) 今週の予想レンジ: 1.1250 ~ 1.1500 127.00 ~ 130.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

今週のユーロ/ドル相場は上値重い展開。週初3日に1.13台前半でオープンしたユーロ/ドルは、「イタリアが財政赤字目標をGDPの2%に引き下げを検討」との報道が伝わりイタリア財政懸念の後退から1.13台後半まで上昇したが、独金利が低下する中で1.13台前半まで値を戻した。4日は米長期金利の低下を背景にドル売りが強まったほか、EU司法裁判所の法務官が「離脱協定成立までは英国はリスボン50条発動の取り消しが可能」と発言したことが伝わり、上昇したポンド/ドルに連れ1.14台前半まで上昇した。しかしその後はドル売りが一巡したことや、メイ英首相がEUと合意した離脱案が英議会で否認されるとの見方が強まり、ポンド/ドルが年初来安値を更新する動きに連れ1.13台前半まで反落した。5日はドル買い優勢となり一時週安値となる1.1312をつけたが、この水準では買い意欲も見られ直ぐに1.13台半ばまで値を戻した。6日は米金利低下を受けたドル売りが進んだことを背景に1.14台前半まで急伸したが、ブレグジット問題やイタリアの予算問題が依然くすぶる中で1.13台後半まで下落した。7日は米11月雇用統計が市場予想を下回ったことで一時週高値となる1.1424まで上昇したが、賃金の伸びは予想通りであり12月の利上げは想定通り行われるとの見方が強まり売り戻され、1.1380で越過した。

ユーロ/円は週初3日に129.20円付近でオープンし、米中貿易摩擦への懸念後退から円が売られ、週高値となる129.27円をつけた。4日の英EU離脱案を巡り議会で否認に対する見方が強まりユーロは売られ、週安値となる127.64円をつけた。5日には買戻しが入るものの、6日はリスクオフムードの中で再び売られた。7日に発表された米11月雇用統計を受けドルに対しユーロが買われたことで対円でも128.67円まで買われ、128.53円で越過した。

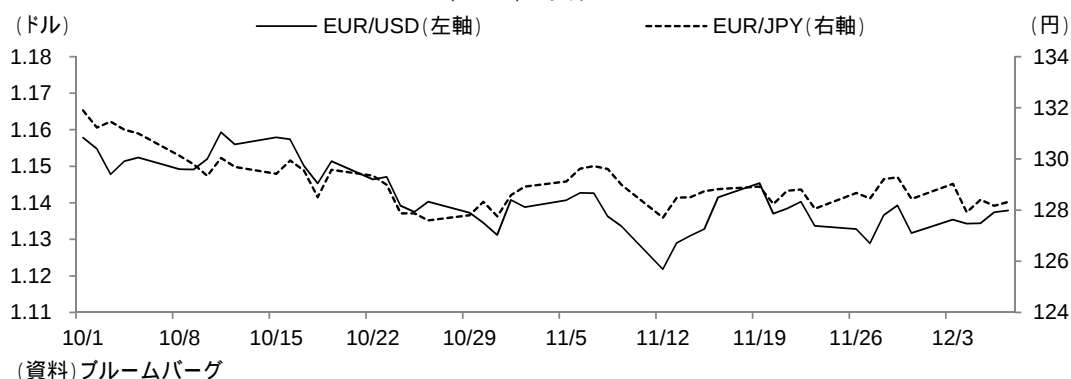
今週のユーロ相場は軟調な推移を予想する。米金利が低下する中、米中貿易摩擦に対する懸念も再び強まっておりリスク回避が強まるであろう。11日(火)には英下院でEU離脱合意案の採決が行われるが、大差で否決されるとの見方が強まっている。否決された場合には事前予想通りとは言え、ブレグジットに対し不透明感が強まりユーロは下落すると考える。ただ米国の利上げペースの鈍化も意識され下値は限定的となろう。また14日(金)にはECB政策理事会が予定されている。来年の正常化に向けた議論がなされるかが注目であるが、今回の会合では特段新しい話が出るとは考えておらず影響軽微と見ている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/3~12/7)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1312 高値 1.1424 終値 1.1380

(対円) 安値 127.64 高値 129.38 終値 128.53



3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.2600 ~ 1.2900 142.50 ~ 144.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、英国によるEU離脱協定案の否決や米中貿易戦争を巡るヘッドラインに振られながらも方向感が出ず、1.26台後半から1.28台前半のレンジで推移した。週初、ポンド/ドルは下落。欧州時間朝方公表された英11月製造業PMI(53.1)は市場予想(51.7)を上回ったものの市場の反応は限定的であった。その後ジャビット英国内相がEU離脱案採決を予定通り11日に行うと表明、否決を防ぐべく採決が延期されるのではとの思惑が後退し、離脱案の否決が意識されポンド売り基調へ。しかし翌4日、中国は対米輸入拡大の意向があると米財務長官がコメントしたことから米中貿易摩擦懸念が後退。ドル売りが進行したことでポンド/ドルは上昇した。この日欧州最高裁法務官はリスボン条約50条について言及し、英国はEU離脱の撤回を一方的に行うことが出来るとの見解を示した。離脱回避の可能性を示す報道に市場はポンド買いで反応しポンド/ドルは一時週内高値である1.2840まで上昇したものの、午後に入り英首相報道官がリスボン条約50条の発動撤回はしないとコメントしたことからポンドは急反落。週内安値である1.2659を付けた。週央、英11月総合PMIは市場予想を大きく下回り16年7月以来の水準となったものの市場の反応は薄く、米国休場の中ポンド/ドルは狭いレンジで推移した。翌6日、11日に控えたEU離脱案採決をにらみポンドは主要通貨対比上値重たく推移。米国市場オープン後、米金利の大幅な低下や米中通商問題の先行き不安からドル売りが進行。ポンド/ドルは前日の下落幅を巻き戻す形で上昇した。7日は終日狭いレンジで推移。朝方公表された英11月HBS住宅価格は約6年ぶりの低水準となりポンド売りの流れに、その後小幅に買い戻されたものの来週イベントを控える中上を試しに行く展開には至らず1.27台後半でNYに渡った。

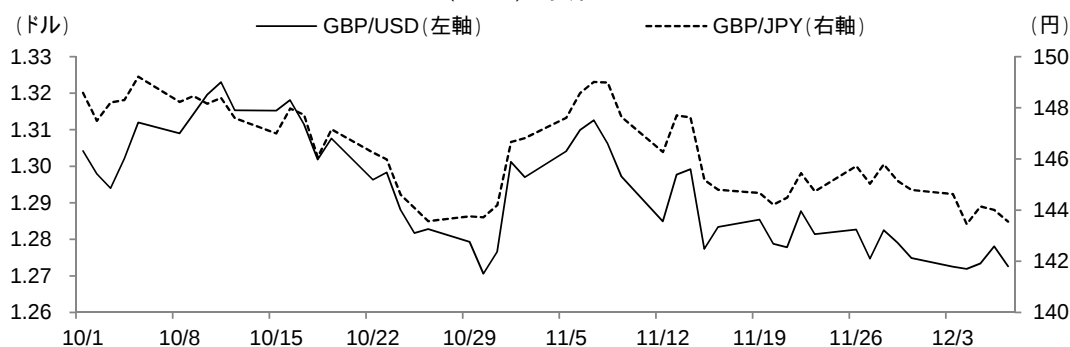
今週の英ポンド相場は、ヘッドラインに振られるボラタイルな展開を予想。メインテーマは引き続き英国EU離脱交渉、サブテーマはイタリア予算案問題である。11日(火)に行われる英国EU離脱案採決ではメイ首相の地方キャラバン成果は虚しく、議会で否決されるのではとの思惑が強い。離脱協定案が可決された場合にはポジティブサプライズであり、大きくポンド買いで反応するだろう。また、イタリア予算案問題では先週イタリア地元紙がコンテ首相はGDP対比の赤字目標に関しサルビーニ副首相とディミオ副首相を説得しており、19年度の財政赤字目標に対し両副首相は強硬姿勢を軟化する用意があると報じた。加えて11日(火)にはコンテ首相が欧州委員会ユンケル委員長と会談し新たな予算案を提出する予定である。制裁措置の回避期待から先週のイタリア10年金利は大きく低下しており、市場は制裁回避を一定程度織り込んでいたといえよう。11日に公表された予算案が制裁の回避に寄与しない物ならば、ユーロは売りで反応しポンドもつられて下落する展開を予想する。今週はメイン、サブテーマともに11日(火)に方向感が出る予定である。今週公表の指標は10日(月)英10月鉱工業生産指数、英10月製造業生産指数、英GDP予測値、11日(火)英11月失業率が控える。いずれの指標も足元の英国の景況感を占う上で重要ではあるものの、英国EU離脱案採決に注目が集まる中市場への影響は限定的であろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/3~12/7)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2659 高値 1.2840 終値 1.2725

(対円) 安値 144.52 高値 145.84 終値 144.79



(資料) ブルームバーク

4. 豪ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1) 今週の予想レンジ: 0.7050 ~ 0.7325 79.00 ~ 82.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル/ドル、豪ドル/円相場はいずれも大幅下落した。週初3日、前週末の米中首脳会談における関税引き上げ見送りを受けてリスクオンの流れとなると、豪州、アジア各国の株式市場は軒並み上昇。0.73台半ばでスタートした豪ドル/ドルは、リスクオンムードに買いが優勢となり、一時、0.7393までじり高となった。カタールがOPEC脱退とのヘッドラインもあったものの、ロシアとサウジアラビアの減産合意が報じられた原油先物相場が大幅反発したことも豪ドル相場のサポート材料となった。ただ、0.74手前では売り圧力も相応にあり、買い一巡後は0.73台後半で推移した。その間、豪ドル/円は、83円台半ばから後半で底堅く推移した。4日、米中間の関税引き上げ見送りが、通商問題の先送りではないとの見方が強まり、豪州、アジア各国株式が売り戻され、米債のショートカバーが一段と進行(米金利は低下)する動きにドル売りが強まると、豪ドル/ドルは再度上昇、一時0.7394と昨日高値圏まで上伸。しかしながら、リスクセンチメント悪化を受けたクロス円下落の流れに、豪ドル/円が軟化、豪ドル/ドルについても徐々に上値が重くなり、結局、0.74手前で失速。なお、RBAキャッシュレートは大方の市場予想通り据え置かれ、声明文の内容にも特段目新しさがなかったことから、豪ドル相場に与える影響は限定的であった。5日、豪第3四半期GDPが事前予想を大きく下回り約2年ぶりの低水準となると、豪ドル/ドルは0.73台半ばから0.73ちょうど水準まで急落。海外時間では、ドルが幅広い通貨に対して買い戻される展開に豪ドル/ドルは0.72台後半のストップロスを巻き込みながら、一時、0.7260まで続落した。一方、豪ドル/円については、豪ドル/ドル下落とドル/円上昇に挟まれて、82円台半ばで揉み合った。6日、燦り続ける貿易摩擦懸念に、中国の通信機器大手のCFO逮捕とのヘッドラインもありアジア各国株式市場が大きく値を下げる展開に豪ドル/ドルは一時、0.7192まで続落。豪ドル/円も82円ちょうどを下抜けると、断続的にストップロスを巻き込みながら、一時、81円台割れの水準まで急落を見せた。7日、弱い米雇用統計に、指標発表直後、豪ドルは買われたもののすぐに売り戻され、豪ドル/ドルは0.72ちょうど絡み、豪ドル/円は81円台前半で越えた。

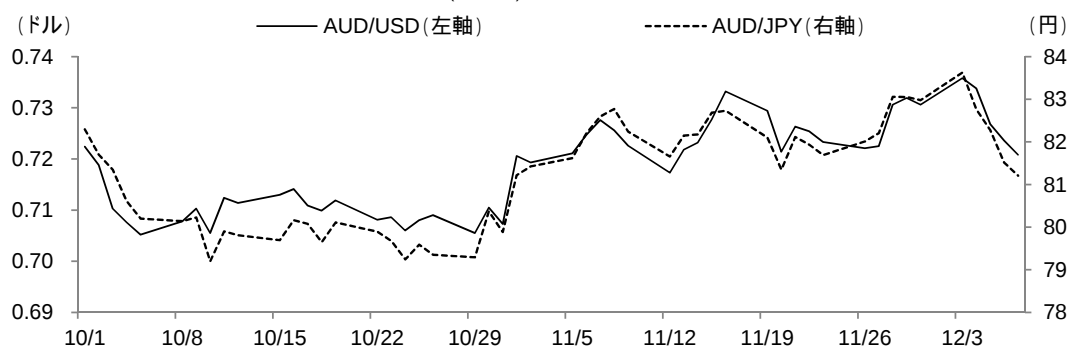
今週の豪ドル相場は戻りの鈍い展開を予想する。オーストラリア自体の経済指標としては11日(火)豪11月NAB企業景況感指数、12日(水)豪12月ウェストバック消費者信頼感、オーストラリア経済と結び付きの強い中国では、14日(金)に中国11月小売売上高、同鉱工業生産、同固定資産投資等が控える。米中通商問題が根本的には未解決である以上、市場参加者は腰を入れてコモディティ通貨を買いづらい。その他、低調な原油先物相場、株式相場の調整地合、イタリア財政やBrexitに揺れる欧州政治不安等、リスク回避姿勢が強まりそうな材料が散見されていることもハイベータ通貨である豪ドル相場にはネガティブであると考えられる。トランプ米大統領をはじめとして米中高官から貿易摩擦緩和方向のヘッドラインが出れば、ショートカバーを予想するものの持続性はなく、メインシナリオとしては前週同様、対ドル、対円いずれも豪ドルの軟調推移を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/3~12/7)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7192 高値 0.7394 終値 0.7197

(対円) 安値 81.59 高値 83.22 終値 82.98



(資料) ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。